



校長室だより No. 4 (令和3年10月1日)

2学期がスタートして1か月が過ぎました。2学期は、体育祭や体育参観週間、修学旅行などの行事もあり、児童生徒のみなさんも、期待感一杯です。2学期が始まった9月当初の新型コロナウイルスの感染状況は、急激な感染者の増加に伴いステージは「非常事態(紫)」となっており、9月12日まで高知市が「まん延防止等重点措置」の対象地域となる等、厳しい状況でのスタートとなりました。そのため心配もあり、本校、分校の児童生徒のみなさんの授業の様子を参観に行かせていただきましたが、コロナに負けず、各自できることに精一杯取り組み、自分の力を発揮することができており安心しました。

現在の本県の新型コロナウイルスの感染症のステージは、9月22日に県の感染症対応の目安が「警戒(オレンジ)」に引き下げられ、明るい兆しも見えてありますが、まだ安心はできません。2学期も引き続き、学校に感染を持ち込まない、広げないために、気を引き締めて、感染症対策を徹底します。ご理解とご協力を重ねてお願いします。



学校経営の「4つの柱」取組の進捗状況

1 教育課程の改善(本校、子鹿園分校、土佐希望の家分校)

1つ目の柱は、「教育課程の改善」です。令和3年8月23日(月)に「令和3年度特別支援学校教育課程研究集会(肢体不自由部会)」をWeb会議システムにより実施しました。新型コロナの感染状況もあり、半日日程に凝縮して研修会を実施しました。本校、子鹿園分校、土佐希望の家分校がベクトルを合わせ、教育課程研究集会に向けての企画、運営、実施後の振り返りに取り組みました。当日は、本校、子鹿園分校からの研究発表、事例提供を行い、茨城大学教育学部教授の新井英靖先生、筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究部長の田村裕子先生から、実践に対する助言や、講演による新たな知見を示唆していただき、密度の濃い充実した学びの機会を得ることができました。

若草3校では、この研究集会で得られた学びを踏まえて、2学期からの公開授業の実践を進めていきます。そこで、本年度の公開授業では、すべての授業において、単元ごとの授業計画である「単元計画」を作成して授業を行います。すでにこれまで取り組まれた先生方の意見として、「この『単元計画』を作成し、取組の見える化を図ることで、途中の改善や単元のまとまりで学習評価を行うことがやりやすい」といった意見が出されています。この単元計画に基づく授業実践をとおして、単元計画(P)、授業(D)、評価(C)、改善(A)という効果的なPDCAサイクルをまわし、教育課程の改善につなげるよう取り組んでいきます。



2 自立活動の充実(本校)

2つめの柱は、「自立活動の充実」です。教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実を図る取組です。ここでは、高知若草特別支援学校(本校)の取組を紹介します。本校では、児童生徒一人一人の実態に即した自立活動の指導や支援が行えるように、各クラス単位でグループを作り、自立活動の指導目標や内容を設定したシート(流れ図)を作成しました。作成にあたっては、自立活動部が研修を企画・実施し、その研修の成果として児童生徒全員のシートを完成させることができました。次は活用です。この自立活動の指導内容を、各教科等と関連させることができるよう、計画を実践し、評価、改善する取組をクラス会や公開授業、研究協議等とおして重ねていきます。



3 ICT活用の推進(子鹿園分校)

3つめの柱は、「ICT活用の推進」です。GIGAスクール構想に基づくICTの活用についての取組です。ここでは、子鹿園分校の取組を紹介します。子鹿園分校では、主幹教諭や情報担当の先生が中心になって、まずは先生方自身が使えるようになるために、1人1台端末を日常会議に導入しています。また、1人1台端末は、生徒の授業実践でも積極的に活用し、効果を実感してきています。



4 働き方改革(土佐希望の家分校)

4つ目の柱は、働きやすくやりがいのある職場の実現を目指しての取組です。ここでは、土佐希望の家分校の取組を紹介します。土佐希望の家分校では、業務の効率化に向けて、職員室・教材室等の整理整頓を行いました。また、分校で作成した事例集等を効果的に活用し、実践事例や教材の共有と活用に力を入れています。会議の時間を短縮するために終了時間を決めて会議を行っています。



★トピック…ICTを活用して、自立活動の新たな支援方法や新しい地域支援の在り方を研究します!

第1回ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会【文部科学省指定事業】令和3年9月8日(本校)

本県では、今年度から特別支援学校のセンター的役割として効果的にICTを活用した自立活動の指導に対する新たな支援法の開発や新しい地域支援の在り方について研究を行うため、高知江の口特別支援学校と高知若草特別支援学校の2校が文部科学省の研究指定校になっています(2年間)。第1回検討会は、「Zoom」によるWeb会議システムで開催。県土が広い高知県において、学校から遠い山間部の小学校の特別支援学級の先生に対し、自立活動等の効果的な支援を行うために学校訪問とICTによる支援をミックスした取組の報告を行いました。帝京大学教授の金森克浩先生や高知大学教授の松本秀彦先生が検討会の委員となってくださっており、それぞれ助言をいただきました。今後、更に研究を深めていきたいと思っております。